

## SDGs を意識した物理教育をめざして

### Aiming for physics education that is conscious of SDGs

東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子

Professor emeritus Tokyo Gakugei Univ.

E-mail: kkozawa@zd6.so-net.ne.jp

#### 1. 本論のねらい

物理学の専門家ではないので環境教育 (EE)・EfS (Education for Sustainability) の視点から、国際的な動向を踏まえて SDGs に関して見解を述べたい。1972 年以降の国内外の会議の勧告や提言の分析的考察を通して、「環境教育 EE」から「持続性に向けての教育 EfS」への教育の質の変革に向けての視座を述べていく。17 の目標とロゴを暗記することではなく、EfS の実践を通して (through) SDGs に貢献していくことが求められているのである。

#### 2. 統合的・ホリスティックなアプローチにより未来を創る力を育む学びと教育

21 世紀に入り、経済・社会・自然・文化が相互に依存関係にあり、グローバルな視座を基底にして緊急に対処しなければならないという認識とともに、「持続性」を視野に入れた展開が求められてきた。地球上のすべての生命体が将来にわたり持続的に生きていくための共有の資源としての地球公共財 (コモンズ) を次の世代に引き継いでいく責任の自覚と行動変容が求められてきた。「持続可能な社会や地域の創造」に向け、社会経済活動やライフスタイルとそれを支える社会システムを根本的へ変革していき、統合的・ホリスティックなアプローチ＜つながり・かかわり＞による「未来を創る力」を育成する「教育」でなければならない。

#### 3. 持続可能性を視野にいれた国際的な取り組み

1972 年の国連人間環境会議は EE・EfS の国際

的広がりのきっかけとなった会議である。この会議で採択された「人間環境宣言」では環境教育の目的を「自己をとりまく環境を自己のできる範囲で管理し規制する行動を、一歩ずつ確実にすることのできる人間を育成すること」と理念を打ち出し、前文で「自然環境と人為的 (人工的) 環境は、共に人間の福祉、基本的人権ひいては生存権そのものの享受のために基本的に重要」であり、「人間環境を保護し、改善することは世界中の人々の福祉と経済発展に影響を及ぼす主要な課題」として原則を述べている。

SDGs へ至る国際的勧告・事例等を紹介したい。

#### 4. 「学び・教育」の本質を問う

現代人は効率性重視や分割・断片化された状況の中で感性がゆがめられ、自然体験や生活体験、社会体験が乏しく、想像力が衰退し、現実からの発想がもちづらい。社会に参加することにより①環境や社会との関係に気づくことで新しい視野が広がり展望がひらけること②現状の課題や問題をよりよい方向に変えていくための目標やビジョンを共有することで実現に向けた展望がひらけること③新しい人間関係が構築できること④共有できるパブリックバリュー (公共の利益・価値) が形成されること、が重要である。さらに学びとは「文化の伝承システム」であり、豊かな自然や資源、さらに地域を捨てることなく「生きられた空間」を活かすことであり、「地域 (日本) を育てる能力」を育むことから学びと教育の本質を考察していく。